

光が丘夏の雲小学校における保護者との意見交換会 令和元年11月21日実施

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
1	<p>PCを一人一台で使えるようにできませんか。</p>	<p>パソコンの普及、コンピューターの発達は見張るものがあり、一人一台のパソコンを子供たちに配備して、それで学習をする、そういう時代になってきています。国をあげてコンピューターによる学校教育を展開していく、それは間違いのないことだと思います。</p> <p>既に各教室には、大型ディスプレイの電子黒板が入っていますし、先生方が使うパソコンは当然配備をしています。あとは子供たちのタブレットパソコンの配備ですが、有効な授業ができるよう、先生方にもしっかりと使いこなしていただいて、タブレットならではの教育効果を上げてもらわなくてはなりません。一人一台配備することと並行して、先生方にも十分検証していただいて、いざ導入されたときに、それを最大限に活用して、最大の教育効果が生まれるような授業にしていくことが一番重要です。</p> <p>練馬区には98校の小中学校があり、多くの子供たちがいますので、一人一台のパソコンを配備するのに何十億というお金がかかります。一度に全校へ配備するのは難しいので、来年度から、小学校へ先に配備し中学校へと、年度を区切りながら順次導入していきたいと思っています。せっかく多くのお金をかけて導入するので、教育効果が上がるように、学校全体、教育委員会全体で取り組んでいきます。</p>
2	<p>6年生の学力調査は、国語と算数しかないのでしょうか。東京都だけでも社会、理科も増やしたほうが、前年度比が分かりやすいのではないのでしょうか。</p>	<p>小学校6年生を対象に、主に国語、算数に関する調査を毎年、また、理科に関する調査を3年に1度のペースで実施しています。これは国の調査となります。また、小学校5年生を対象に、国語、算数、理科、社会に関する調査を実施していますが、これは東京都の調査となります。</p> <p>5年生の学力調査が4教科であるため、6年生も4教科であれば、ご家庭でも学力がどの程度変わったかを捉えやすくなるという考えもわかります。しかし、6年生の調査は国が、5年生の調査は東京都がやっており、それぞれの目的が異なります。このため、5年生と6年生の学力調査を4教科に統一したとしても、得点等による単純比較で前年度からの変化を捉えることは難しいと考えます。</p> <p>学校では、それぞれの学力調査の結果を、授業をどう改善したら子供たちがより理解できるだろうかということを重点に、先生方が集まって検証し、授業改善に生かしています。国の調査、都の調査、それぞれ目的が違うので、経年での比較にはならないと思いますが、目的が違うことでいい部分もありますのでご理解いただければと思います。</p>

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
3	<p>数年前から英語の授業が始まりましたが、公立小学校における到達目標は具体的には何ですか。また、これまでを評価し、思った結果は得られていますか。さらに、その為に現場の先生の技量は足りていますか。</p>	<p>来年度より、小学校では新しい学習指導要領にもとづき、外国語の授業が充実します。3・4年生では外国語活動を週1日程度、年間35時間行うこととなります。5・6年生は、今まで外国語活動でしたが、外国語科という教科として、週2日程度、年間70時間行うこととなります。</p> <p>まず3・4年生の外国語活動の目標ですが、1つ目は、外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や表現に慣れ親しむこと。2つ目は、外国語で「聞く」「話す」という活動を通して、自分の考えや気持ちを伝え合う力を養うこと。3つ目は、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと。この3つが主な目標となります。5・6年生の外国語科では、3・4年生の目標を充実させて、「話すこと」「聞くこと」に加え、「読むこと」「書くこと」についても学習していくこととなります。</p> <p>学習指導要領は来年度変わりますが、昨年度と今年度の2年間は、準備する期間となります。その準備する期間に、指導計画を作成し、学習内容や指導方法の研究や研修を行っています。外国語活動と外国語科の指導ができる先生方は確実に多くなってきていますし、指導力も高まってきていると思います。</p> <p>しかしながら、先生方の一層の指導力向上は大変重要であると考えています。そのため、東京都や練馬区では外国語の指導方法の工夫や、ALT(外国語指導助手)との連携、様々な教員研修を実施し、先生方の指導力向上を図っていきます。</p>
4	<p>学校公開の様子だけでも、担任の先生の多忙が伝わります。先生方への早朝や残業手当を出さないのであれば、補助の先生を増やしたほうが良いのではないのでしょうか。先生方には、子供に向き合う時間をたくさん作って頂きたく、事務的業務については、教育委員会で予算を確保し、アウトソーシングなど、どこかに気楽に頼める状況を作っていただきたいです。</p>	<p>練馬区教育委員会としても、先生方の多忙さが原因となって、子供と向き合う時間が減っていることや教育の質の低下につながる恐れがあることについて、重く受け止めています。区では、平成31年3月に「練馬区立学校(園)における教員の働き方改革プラン」を策定し、このプランに基づいて学校と連携しながら、教員の長時間勤務の縮減、負担軽減等について具体的に取組を進めています。</p> <p>教育委員会が行う具体的な支援の一つとしては、今年の6月に行った学校電話機への応答メッセージ機能の導入が挙げられます。夜間の電話対応を減らし、先生方の授業準備、自己研鑽の時間の確保につなげています。また、今年度より学校休務日の設定促進を進めています。今年度の夏季休業中は、多くの学校で3日以上以上の休務日を設定することができました。</p> <p>アウトソーシングに近い取組として、平成30年度から、スクール・サポート・スタッフ配置事業も始まりました。これは、教員が担う業務の一部を、教員の指示を受けて行うスタッフを配置するもので、東京都の事業となります。授業で使用する教材や物品の準備、式典や行事の準備補助等、各校で様々な業務を割り当て、教員の負担軽減につなげています。現在は、配置校拡大に向けて東京都へ働きかけています。</p> <p>今後もこうした取組の継続、そして充実を図り、教員の負担を軽減し、より児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制づくりを進めていきます。</p>
5	<p>学校図書室に、司書の先生を児童が学校にいる時間には常駐してもらうことはできないのでしょうか。本が借りたい時に、いつでも借りられるようになると良いと思います。</p>	<p>光が丘夏の雲小学校には、司書等の資格を有する学校図書館支援員を配置しています。この学校図書館支援員は、週2～3日、年間100日程度、図書館から学校図書館に派遣され、本の貸し出しの他にも、本の紹介や調べ学習の支援などを行っています。</p> <p>授業がある日すべてに人員を配置するのは、区の財政状況等の課題があり難しいですが、本の貸し出しについては、教員や図書委員会の児童も行っており、毎日借りられるとのこと。学校図書館支援員がいない日も、ぜひ積極的に学校図書館をご利用いただき、読書活動を進めてください。</p>

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
6	<p>スマホやタブレットなど、家庭でSNSを使うことが当たり前になってきています。それに伴い、携帯やスマホを持つ子供たちが低年齢化してきました。SNSの危険性は常々情報モラルの授業で取り上げられています。が、もう少し踏み込んだ内容で、危険性を伝えてもらえるように考えてもらえないでしょうか。また、子供にスマホを持たせることに対する危険性を、保護者向けに伝えることも考えてもらえないでしょうか。</p>	<p>現在、各学校では、道徳の時間や学級活動、生徒会活動など様々な機会を捉えて、情報モラル教育を進めています。</p> <p>練馬区教育委員会では、情報モラル教育に関する施策として、平成21年度から全校で、小学5年生と中学2年生を対象とする情報モラル講習会を実施しています。この情報モラル講習会は、保護者を対象とした講習も実施していますので、機会があれば、ぜひ積極的にご参加いただきたいと思います。</p> <p>また、教育委員会は「SNS練馬区ルール」を策定しています。そして、学校ではこの「SNS練馬区ルール」を基に「SNS学校ルール」を策定しています。この「SNS学校ルール」を参考にいただき、ぜひ各ご家庭でも「家庭ルール」の作成に取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>SNSトラブル等から児童を守るには、学校と家庭との連携・協力が欠かせません。今後も学校や教育委員会の取組へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。</p>
7	<p>6年生まで預かってくれる学童保育を学校施設内に作って欲しいです。</p>	<p>練馬区では、全ての子供たちの放課後の居場所として、「ねりっこクラブ」を推進しています。「ねりっこクラブ」は、学校内施設で、保育を必要とする児童を対象とした「ねりっこ学童クラブ」と当該小学校の児童ならだれでも利用できる「ねりっこひろば」を一体的に運営する事業です。</p> <p>「ねりっこクラブ」は、小学校65校のうち19校で実施しており、令和2年4月からは新たに8校を加え、27校で実施します。現在、学校内に学童クラブがない学校は18校ありますが、65校全校での早期実施を目指して取り組んでいます。</p> <p>学童クラブの入会希望者は、子育て期の女性の就業率の上昇に伴い、近年急増しています。今年度の学童クラブの申請者数は5,500人で、5年前に比べると約1,300人増えています。このように、学童クラブの入会希望者が増え続けていく中で、現在、区では低学年のお子さんを優先的に受け入れています。そのため、高学年、6年生までの受入れについては、定員に空きのある一部の児童館・地区区民館に併設された学童クラブで実施しているのが現状です。光が丘夏の雲小学校においても、できるだけ早く「ねりっこクラブ」を実施し、高学年を含む全ての子供たちの放課後の居場所を確保できるよう努めてまいります。</p>